

校長会報

第147号

宇都宮市立戸祭小学校
栃木県小学校長会事務局

発行責任者
松本和士

印刷所
(有)正栄社印刷所

節目の年を迎えて

栃木県小学校長会長 松本 和士



ことが求められます。

新型コロナウイルスの感
染拡大に伴う臨時休業以降、
学校現場では、新学習指導
要領の着実な実施に加え、
GIGAスクール構想実現
に向けた取組や働き方改革
の推進、いじめ・不登校対
策などの課題が山積する中、
感染防止対策と子どもたち
の学びの両立に努めてきま
した。教育のデジタル化が
進み、学習や校務において
リアルタイムに広く情報の
共有ができるなど、その良
さを実感する一方、感性を
豊かに働かせながら人と対
面したり、地域との関わり

を実感したりするといった
活動には常に困難が伴う時
期を過ごしてきました。

コロナ禍での日常も三年
目を迎え、社会は緊急状況
から規制緩和の方向へと進
んでいます。そういった動
きを踏まえながらも、子ど
もたちの健康への配慮は緩
めず、一層工夫を凝らして
有用な体験機会を充実させ、
よりよい社会の形成に参画
するための資質と主体的な
態度を育んでいかなければ
ならないと考えます。

さて、今年度は本会創立
七十五周年の節目を迎えま
す。本会が設立されたのは
昭和二十二年。様々な物資
が不足し、生活も不安定な
時代、県内の校長が連携し、
研鑽に励むことで学校管理

職としての教養と経営力を
高め、本県教育の振興に努
めようとした当時の先生方
の熱い思いが伝わります。
周年記念事業は、本会の
発展に尽力された方々の功
績や歴史を振り返ることを
通して、改めて小学校教育
の理念を確認し、今後の活
動への意欲を高め、会員相
互の結び付きを深めること
を目的としています。

諸先輩の思いを受け継ぎ、
今回の基本目標である「自
ら未来を創造し、ともに生
きる社会を創る子どももの育
成」のため、国の動向や他
県の取組に関する情報の提
供や、各地区、各学校での
実践と成果についての情報
共有が更に充実するよう努
めてまいります。

十一月には記念式典の開
催、来年二月には記念誌の
刊行を予定しています。会
員の皆様には、これらの事
業に様々な立場で関わって
いただくこととなりますが、
ご協力の程よろしくお願
い致します。



第七十五回 栃木県小学校長会総会

令和四年度栃木県小学校長会総
会が五月十三日に県教育会館での
会場参加とリモート参加を併用
し、県教育委員会義務教育課長の
山岸一裕様、前会長の丸山周二様
をお招きして開催されました。

松本和士会長は挨拶の中で、「今
年度本会は創立七十五周年を迎え
る。周年記念行事は、本会の発展
に尽力された先輩方の功績や、本
会の歴史を振り返ることを通し
て、改めて小学校教育の理念を確
認し、今後の活動への意欲を高め
るとともに、会員相互の結び付き
を深めることを目的としており、
節目となるこの一年、発足当時の
校長先生方の志を受け継ぎ、本会
の活動がより有意義なものになる
よう努めていきたい。」コロナ禍
での日常も三年目を迎え、今後は
コロナ禍のその先を見据え、一層
活力ある学校づくりを推進し、子
どもたちが生き生きと学び、生活
できる教育環境を再構築してい
かなければならない。校長会とし
て、国の動向や他県の取組状況の
提供、及び、各地区の校長会や各
学校での取組の成果を共有し、と
もに学校力を高めていけるよう努
めていきたい。」と述べました。
その後、事業報告や決算報告、
今年度の事業案や予算案が審議さ
れ、承認されました。
最後の研修会では、宇都宮大学
共同教育学部教授、川島芳昭先生
からICT機器がもたらす教育改
革―学校教育と家庭教育の在り方
―と題して講演があり、積極的
に情報共有を行い、ICT端末活用
の強みを授業の中で生かすことも
に、学校と家庭をつなぐ連続的な
学びとなる取組が必要であるな
ど、示唆に富んだお話を聞くこと
ができました。

各マスコミが成人年齢の
引き下げを報じる中、令和
四年度の新学期が始まりま
した。主権者としての資質・
能力を身に付けるため、高
等学校においては新科目「公
共」が必修化され、中学校
からは公民などの教科で内
容の充実が図られます。小
学校教育でも同様に、子ど
もたちが成年に達する時期
が早まったことを念頭に置
きながら指導に努めていく

ことが求められます。
新型コロナウイルスの感
染拡大に伴う臨時休業以降、
学校現場では、新学習指導
要領の着実な実施に加え、
GIGAスクール構想実現
に向けた取組や働き方改革
の推進、いじめ・不登校対
策などの課題が山積する中、
感染防止対策と子どもたち
の学びの両立に努めてきま
した。教育のデジタル化が
進み、学習や校務において
リアルタイムに広く情報の
共有ができるなど、その良
さを実感する一方、感性を
豊かに働かせながら人と対
面したり、地域との関わり

を実感したりするといった
活動には常に困難が伴う時
期を過ごしてきました。
コロナ禍での日常も三年
目を迎え、社会は緊急状況
から規制緩和の方向へと進
んでいます。そういった動
きを踏まえながらも、子ど
もたちの健康への配慮は緩
めず、一層工夫を凝らして
有用な体験機会を充実させ、
よりよい社会の形成に参画
するための資質と主体的な
態度を育んでいかなければ
ならないと考えます。
さて、今年度は本会創立
七十五周年の節目を迎えま
す。本会が設立されたのは
昭和二十二年。様々な物資
が不足し、生活も不安定な
時代、県内の校長が連携し、
研鑽に励むことで学校管理

令和四年度
活動目標

本校長会は、学校が更に発展を続けることを目指し、以下の八点を具体目標として、県並びに市町教育委員会や関係機関との関係性を大切にするとともに、校長間のネットワークの一層の活性化を図りながら研究・実践を積み重ね、基本目標の具現化に努める。

《基本目標》

自ら未来を創造し ともに生きる社会を創る子ども
の育成を目指す 学校経営の推進

《具体目標》

- 一 学校経営の充実
- 二 創意ある教育課程の実施
- 三 社会の変化に対応した教育の推進
- 四 豊かな情操と道徳心を養う教育の推進
- 五 教職員の指導力の向上と人材育成
- 六 危機管理意識や能力の高揚
- 七 学校の働き方改革の推進
- 八 関係諸機関との連携と組織の強化

地区会長一覧

宇都宮・上三川 生田 敦

宇都宮市立西原小学校
新学習指導要領の実施や働き方改革、定年延長などの課題に前向きに取り組みとともに、会員間の情報共有により、コロナ対応も的確にできるようにします。

上都賀 大橋 久美子

鹿沼市立中央小学校
四十六名の会員がいることを強みに、情報やアイデアなどを交流しながら、自己の資質・能力の向上と諸課題の解決に積極的に取り組む校長会を目指します。

芳賀 小林 春彦

芳賀町立芳賀東小学校
二十八名の校長が連携し、研修や情報交換を通して、信頼される学校の実現を目指した学校経営の推進に向けて、意欲的に取り組む校長会を目指します。

下都賀 青木 靖至

壬生町立稲葉小学校
壬生町・野木町十三名の

校長は、各町や各校で実施しているコロナ感染症の対策やICT活用について情報を交換しながら、学校経営の充実に取り組みます。

下野市 高橋 美恵子

下野市立緑小学校
義務教育学校が開校し、八名となった校長会。高い教育理念に基づいた創意ある教育活動を進めるために連携・協力しながら、学校経営の充実を目指します。

小山市 田熊 宏昭

小山市立小山第一小学校
綿密で迅速な情報交換などを行い、一人職である校長が確信をもって学校を経営できるよう、会員相互の互恵的関係の構築に努めてまいります。

栃木市 服部 雅弘

栃木市立栃木第三小学校
二十九名の校長が、高い同僚性を発揮し、互いがかつ悩みや課題、情報を共有するとともに、積極的な研

修に取り組み、連携のとれた校長会を目指します。

塩谷南那須 鈴木 厚子

高根沢町立阿久津小学校
今年度、塩谷と南那須の小学校長会が一緒になりました。両地区のよさを生かして融合・協働し、子どもたちのために、本会の更なる発展・充実を目指します。

那須 小滝 威

大田原市立紫塚小学校
那須の風土に根差した子どもたちの健やかな育成のために、会員が緊密に連携・協力しながら、本地区の学校教育の充実に主体的に取り組む校長会を目指します。

佐野市 渋江 隆夫

佐野市立天明小学校
北関東のどまんなかで、正解のない課題に対しても、働き方改革を念頭に置きながら、お互いのもつ見識を共有し議論を重ねる校長会を目指します。

足利市 池山 勝幸

足利市立山辺小学校
依然続くコロナ禍ではありますが、市内二十二校の連携・協力のもと、足利の教育の発展と学校経営の充実を図れるよう、校長会の運営に努めてまいります。

令和四年度
役員一覧

会長 松本和士(宇・戸祭)

副会長 生田 敦(宇・西原)

書記 樽井圭子(宇・緑が丘)

書記 長谷川昌弘(宇・五代)

会計 鈴木厚子(塩南・阿久津)

会計 吉住寛子(宇・泉が丘)

会計 堀場幸伸(宇・中央)

会計 柏田佐智子

会計 御子柴満(佐・葛生)

会計 蓬田みどり

会計 服部雅弘(栃・栃木第三)

会計 (下野・細谷)

専門部
活動方針

総務部

部長 高島 俊幸
宇・横川東小学校

主題

栃木県小学校長会活動方針の具体的な推進

二 活動目標・内容

- ・ 本会の事業推進及び連絡調整
- ・ 教育懇談会等による対策活動
- ・ 各部会に属さない必要事項の処理

(一) 県小学校長会定期総会の準備・受付等

(二) 県教育委員会への提案事項作成のためのアンケート実施と集計及び提案事項の検討

(三) 提案書作成と提出(小中学校長会で作成、小学校が取りまとめ)

(四) 県教育委員会との教育懇談会出席

(五) 提案事項に対する回答の整理

(六) 全連小三地区対策・調研担当者連絡協議会に参加(本県の実情等の発表及び他県の情報収集)

研修部

部長 小野 浩司
宇・錦小学校

主題

自ら未来を創造し、ともに生きる社会を創る子どもの育成を目指す学校経営の推進

二 活動方針

全連小大会主題と県小学校長会の基本目標に基づき、活動を推進する。

三 活動目標・内容

(一) 各地区の研修計画に基づく全員参加による研修の充実と推進

(二) 各種研究大会及び研修会の推進と協力

・ 第七十四回全連小島根大会への参加

・ 関プロ群馬大会への参加(研究発表)

(三) 研修記録「第六十二号」の編集・発行



調査部

部長 金子 靖子
宇・今泉小学校

主題

各学校が取り組んでいる「生きる力」を育む教育の現状についての調査及び学校経営上の課題解決に迫る資料の提供

二 活動目標・内容

各学校が取り組んでいる教育活動の内容や方法を調査し、学校経営上の課題解決のための資料として提供する。

(一) GIGAスクール構想について(二年度)

(二) 小学校における教科担任制について(二年度)

※七月上旬に、作成したアンケートを各校へ配信致しますので、期限までに、各地区調査部長へ回答いただきますようお願い致します。調査結果を、小学校長研修記録「第六十二号」に掲載致しますので、ご利用ください。

厚生部

部長 高島 利佳子
宇・豊郷中央小学校

主題

福利厚生の充実と健康増進・健康管理の推進

二 活動目標・内容

(一) 会員の福利厚生に関する各種事業を推進する。

(二) 学校生活協同組合との連携による会員の福利厚生の充実

(三) 教育関係諸団体との合同による福利厚生事業の充実のための要望

(四) 栃木県小中学校長会慶弔規程に基づき、会員の慶弔に関する事業及び会計業務

※令和四年度は、小学校長会の慶弔会計が県小中学校長会慶弔の会計を担当します。

今年度も会員のための各種事業が効率よく実施されるように努めますので、会員の皆様のご協力をお願い致します。また、会員の慶弔に関する情報がありましたら、お知らせください。

広報部

部長 菅原 珠貴
宇・雀宮南小学校

主題

県小学校長会の活動目標の具現化に関わる広報活動の推進

二 活動目標・内容

校長が今日的課題や当面する学校経営上の諸問題に取り組む際の情報を提供する。

(一) 校長会報の年二回発行(七月・二月)

・ 特色ある学校づくり

・ 豊かな心を育てる学校経営

・ 県校長会研修の取組

・ 県教育委員会からの情報

・ 全連小の動向・情報

・ 心に響く様々な話題

(二) 全連小広報活動への協力(機関紙「小学校時報」など)

(三) 県小学校長会のホームページの運営・管理



主張 理想の学校に向けて

栃木県小学校長会副会長 生田 敦



ここ数年、校長先生方は、新型コロナウイルスとの戦いを続けられてきていると思います。毎日、毎日、学校において感染者が出ないかハラハラしながら、また、日々の教育活動についても感染拡大防止に最大限の配慮をしながら、慎重に慎重にと学校教育活動を進められていることでしょう。

一方で、いつしか学校の感染症との戦いに終わりがあるとして、校長先生の理想の学校経営が実現する時から逆算してみても、現在は、どの時期にきているか考えることはあるでしょうか。私は、コロナ禍にあっても、校長先生には理想の学校経営像を念頭におきながら、現在地の確認や対応をすることが大切であると考えています。

例えば、学校行事をとれば、運動会の季節や一日か半日開催か？ 修学旅行の方面は？ 家庭訪問の実施方法は？ 卒業式の実施方法は？ などなど、自分の学校に

とって一番適した方法を中長期的な視点に立って見据えることが大切です。感染症に押されっぱなしの対応でなく、常に校長先生らしい学校経営を目指して、現在地を確認しながら取組を進めることが必要であると考えています。

ただし、ご案内のように学校経営は校長先生が独断で行うものではありません。校長先生が最終的な判断をするものの、それまでの過程においては、教職員はもとより、保護者、地域とのコンセンサスをとっておく必要があります。つまり、周りの方々に、校長先生の判断が納得いくものとして映るようにしなければならぬのです。

その判断のためには、校長会の役割や意義は重要になるものと考えており、地区内はもとより、地区間における校長間のネットワークの活性化が必要です。そのような校長会となるよう、私自身、微力ながら力を尽くしてまいります。



主張 今、学校経営に求められること

栃木県小学校長会副会長 大橋 久美子



学習指導要領が改訂され、全面实施となって早二年。折しも新型コロナウイルス感染症が世界的流行となり、緊急事態宣言が発出されて、全国一斉休校による様々な対応に追われている最中でした。

この二年余は、感染症対策をどのようにしながら協働的な学びを深めていけばよいのか、感染状況を察知しながら、その都度、教職員と検討して進めてきました。

今回の学習指導要領は、今後、劇的に変化する社会の中で、子どもたちがたくましく生きていくために必要な資質・能力の育成を目指し、大きな改訂となりました。正解のない問題に対する納得解や多様な他者との協働、幸せな人生の創造などが、これからの教育に求められています。児童や地域の実態を踏まえて、各学校では、求められる資質・能力を掲げ、全教育活動の中で、カリキュラム・マネジメントしながら、その達成を目指すことが課されました。

これまで本校では、「児童に身に付けたい資質・能力」を掲げて、その育成を目指し、全教育活動を通して意図的・計画的に指導してきました。制限のかかる中で、子どもたちは主体的に取り組み、友達と協力しながら課題を解決して、満足感や達成感に満ちた表情を見せてくれました。

現在、いじめや不登校の問題、特別な教育支援を必要とする児童の増加、さらには、GIGAスクール構想の充実や教科担任制の在り方、教職員の働き方改革など、様々な課題が山積しています。このような先行きの見通せない時代にあるからこそ、持続可能な社会の創り手となる子どもを育成を常に念頭に置いて、学校経営をしていく必要性を感じています。

私たち校長には、教職員が主体的に「チーム」で学校改革が行えるよう、的確で力強いリーダーシップが求められています。自らが精進に努めるとともに、小学校長会の先生方と情報やアイデアなどを相互に交流して、学校経営に生かしていきたいと考えています。

自ら未来を創造し ともに生きる社会を創る子どもの育成を目指す学校経営

誰もが認められ、誰もが安心してチャレンジできる温かな今市小

日光市立今市小学校 黒澤 守

本校は、明治六年の十一月に「時習舎」として開校されてから今年で創立百五十周年目を迎えます。一人一人の個性や能力を尊重し、知・徳・体の調和のとれた、人間性豊かな、創造力に富んだ児童の育成に努めています。

今年度も「子どもの夢や希望を実現する学校」を合い言葉に、チーム今市小として、誠意をもって、職員・保護者・地域と力を集結し、組織的に教育活動に取り組んでいます。子どもたち一人一人が元気に登校し、様々な活動に真剣に向き合い、笑顔で帰って行く姿を見ることが何よりも嬉しいことです。

そこで一番大切に考えていることは、誰もが認められ、誰もが安心して過ごせる学校、誰もが安心してチャレンジできる温かな学校であり続けなければいけないということです。

そのためには、安心感のある温かな環境づくりが大切と考えています。教師の明るい笑顔と優しい言葉遣いを基本とし、よりいっそう温かい人間関係を築き、誰もが認められる学校、ルールがきちんと守られる学校であることが必要です。さらには、心から落ち着い

て学ぶことができる、整理整頓が行き届いたきれいな教室であることも重要と考えています。

また、本校では、「心をそろえる」と題して、凡事徹底の継続・推進を図っています。明るい挨拶や返事、時間を守る・履きものをそろえる・よい姿勢で話を聴くなど、当たり前のことを当たり前にできるようにする。これは、自分を大切にすると同時に、相手を大切にすることにもつながると信じて指導を重ねています。子どもたち一人一人が、自分だけでなく、友達や周りの人たちを大切に思う心を、みんなでそろえられるようにしています。

地域・保護者との協働活動、学校支援ボランティア活動も充実しています。令和元年度に設立された「おやじの会」では、子どもたちに様々な

体験活動の機会を設定していただき、そのおかげで大いに心を耕しています。



一年生を迎える会

「はあ」とふる運動

一 はじめに

本校は、明治七年の創立以来百四十八年目を迎える学校です。本校学区は、高原山を背に、実り豊かな田園の中に広がり、塩谷町の中心地に位置しています。児童百二十八名は、自然豊かな環境に恵まれ、素直にのびのびと育っています。本校の学校教育目標の具体目標は「共に学び、よく考える子 みんなと仲良くする子 粘り強く頑張る子」です。

二 特色ある教育活動
本校では、以前から教育目標の具現化を目指す具体的な活動として「**はあ**」「**あ**」「**と**」ふる運動」に取り組んでいます。

① **は**りきり いったい
② **あ**いさつ いったい
③ **と**もだち いったい
④ **は**あ いったい
⑤ **と**もだち いったい
⑥ **は**あ いったい
⑦ **と**もだち いったい
⑧ **は**あ いったい
⑨ **と**もだち いったい
⑩ **は**あ いったい

これらの様々な体験を通して、絆を深め、コミュニケーション能力を高め、自分を見つめたり、友達と互いに認め合ったりする心を培っています。

また、「見る」、「聴く」、「伝える」

塩谷町立玉生小学校 碓氷 勉

の視点を大切にした「考えをつなぐ」授業の実践やICTを活用した学びの創造を通して、「主体的・対話的で深い学びのある授業の創造」に取り組んでいます。

さらに、近年のコロナ禍により中断していた「地域とふれあおう集会」を再構築し、児童・地域・保護者・学校の連携を深め、児童が自分の住んでいる地域を再発見し、ふるさとを愛する心がより育つ機会として実践する予定です。

三 おわりに
今後も地域の方々や保護者の温かい支援をいただきながら、「**はあ**」「**あ**」「**と**」ふる運動」を児童の具体的な活動のベースとして、日々の教育実践を推進していきたいと思えます。



新任式での「はあとふる運動」

特色ある学校づくり

地域の方々と「出会う、関わる、ふれあう」

那須町立学びの森小学校 遠藤 勇規

学びの森小は、平成二十八年四月に大島小と朝日小が統合した開校七年目の学校です。校名の由来となった「学びの森」が校舎の北側にあります。

地域との関わりの中で多くの教育活動が行われています。昨年度に行われた教育活動の「子牛の飼育」を紹介します。

五年生は、総合的な学習の時間で地域の盛んな酪農について、牛の飼育を通して学びました。今回は、地元の牧場からジャージー牛を預かり、学校で飼育をしました。子牛は、四月生まれの雌です。五年生の児童たちは「みんなでニコニコしながら育てたい」との思いを込めて「ニコリー」と名付けました。九月二十七日「入学式」を学校の放牧場前で行いました。式後、牧場の方からエサや水の与え方、掃除の方法などを教わりました。児童は、「協力し合って大きく育てたい」と目標を立てました。子牛の世話は、朝夕二回。内容は、エサやり、小屋と外の掃除、体調チェック、そして世話の内容の記入。牧場の方が来たときは、校庭を散歩しました。



約二か月間、毎日五グループに分かれ、交替で世話をしました。十二月二日に行った「卒業式」では、ニコリーに校長から卒業証書を渡すとともに、式辞を贈りました。また、牧場の方から、世話をした五年生たちに感謝状が贈られ、「大変なこともあったと思います。那須で暮らすと必ず酪農家や牛と関わる必要があります。そのときに、この二か月間の経験を思い出してほしいです。」と感謝の言葉をいただきました。学校は、子どもたちと地域のためにあると思います。子どもたちは、体験活動を通して地域の方々と「出会う、関わる、ふれあう」ことで生きる力が自然と身に付いてきます。これからも地域と連携し、教育活動を進めていきます。

青少年赤十字活動を通して

真岡市立西田井小学校 篠田 政雄

本校は、明治七年八月に「彰道学舎」として設立した歴史ある学校で、田園の中に建つ児童数が七十七名の小規模校です。ちょうど十年前に竜巻の被害にあった学校という、あつと思われる方もいらつしやると思います。

さて、本校が目指す児童像に「気づき 考え 実行する」という態度目標を掲げています。これは青少年赤十字(JRC)の目標です。昭和二十四年にJRCに加盟し、今年で七十三年目になります。JRC活動は「思いやり」や「優しさ」を育てることを目的としています。

本校では、JRC委員会が行う「よい子の日」の活動と、児童が主体的に奉仕活動を行うVS(ボランティア・サービス)活動の二つの活動を中心に取り組んでいます。「よい子の日」の活動では、募金、エコキャップ集め、古切手集めを行い、福祉活動へ協力しています。また、VS活動は、①各自が学校生活の中で行う「個人VS」、②長期休業中に親子で行う「親子VS」、③各学級で計画をたてて実施する「学級VS」、④縦割り班で定期的な実施する「縦割り

班VS」があります。「縦割り班VS」は今年度からの取組で、一年生から六年生までの異学年による縦割り班を編制し、清掃や美化活動などの奉仕活動を行います。時には、思うように仕事が進まないことがあります。その時に、指導者は待ちの姿勢を大切に、自ら解決していきけるよう促しています。下級生が障害物でうまく清掃できない場合、上級生が「ここ持っているから拭いてくれる」などと優しく声掛けする姿が随所で見られます。「気づき 考え 実行する」は今の厳しい時代を生き抜く力を育む態度であり、「生きる力」につながるものと考えています。JRC活動だけでなく広く教育活動全般で合い言葉としています。



縦割り班VS活動

JRC登録式


 Cosmos
 
 栃木県女性校長教頭会だより

栃木県女性校長教頭会長

湯澤 美佐江

本会は、しなやかな思考による学校経営や確かな教育の創造を目指し、研鑽を積むことを目的とし、今年度は公立小・中学校及び義務教育学校の女性管理職三百三十四名（内校長百二十六名）で活動がスタートしました。

現在は、七月八日（金）の関ブロ栃木大会に向け、実行委員会が中心となり、最終段階の準備を進めております。大会主題である「自ら未来を切り拓き共によりよい社会を創る日本人を育成する学校教育の推進」と、副主題である「夢や志をもって未来を描き 共に切り拓く力を育む学校経営」の具現化に向け、充実した大会となるよう努めてまいりたいと思います。

また、過去二年中止となつてしまった本会夏の研修会を、今年度はオンラインで開催することとし、日本女子大学教授坂田仰先生をお招きし、学校における危機管理について学びを深めたいと思います。今年度も女性管理職の資質の向上のため、活動を止めることなく前進させていきたいと思ひます。


 「とちぎの子どもたちの
学力向上に向けて」

栃木県教育委員会

「令和四（二〇二二）年度とちぎっ子学習状況調査」が、四月十九日に実施されました。

調査結果は、六月末に学校に送付致します。学校全体で調査結果を分析することで、学力向上に向けたこれまでの取組の成果や課題を見いだすことができます。

また、調査問題には、学習指導の改善・充実に向けたメッセージが込められています。出題の趣旨や問い方などを確認することで、授業改善に役立てることができま

す。校内研修会などで、調査問題を基に授業づくりについて話し合うなど、取組の方向性を共有していただければと思います。学力向上に向けた取組については、保護者の理解・協力が欠かせません。今年度も、調査実施に合わせ、調査対象学年の保護者に向けてリーフレットを提供させていただきます。掲載した二次元コードを読み取ること、資料内容の解説動画を視聴できるよう工夫しています。保護者会で配布するなど、ぜひ御活用ください。

令和四年度

関ブロ理事会だより

栃木県小学校長会副会長

生田 敦

第一回理事会は、三年ぶりに参集して、東京で開催されました。

一 会長あいさつ文要旨

社会全体が変化する中、できることをどのように実施するかと、校長会の活動もどうすればできるかという視点に立って進めたい。

二 協議

○令和三年度会務、会計、監査報告

○令和四年度役員選出

・ 会長（東京都 平川惣一）

・ 副会長（群馬県 折田一人）

・ 幹事（東京都 日下部弘之）

○令和四年度事業計画案、予算案

○第七十四回関ブロ群馬大会

・ 参集して実施を決定

○第七十五回関ブロ東京大会

（第七十五回全連小東京大会）

・ 令和五年十月十八～二十日

○第七十六回関ブロ長野大会

・ 令和六年六月六・七日

・ 栃木県から三十五名参加予定

・ 栃木県から二発表予定

三 情報交換

・ コロナ感染の場合の休業

・ 代替教員の確保

・ 定年延長等

「全国連合小学校長会

第七十四回総会・研修会から」

栃木県小学校長会長

松本 和士

五月二十七日、三年ぶりに全連小事務、代議員が東京都港区のニッショーホールに参集し、総会並びに研修会が開催されました。

総会では、大字弘一郎会長（東京都）からの挨拶、文部科学省大臣官房審議官の渕上孝氏をはじめとする来賓からの祝辞、退任役員への感謝状贈呈等があり、続いて、昨年度の事業・決算報告、本年度の活動方針、事業計画、予算案が審議され、全て承認されました。

研修会では、文部科学省初等中等教育局主任視学官の宮崎活志氏からの「最近の初等中等教育の動向」と題する講話に続き、関係各課より「学習指導要領の実施」、「小学校高学年教科担任制の推進等と学校の働き方改革」、「いじめ問題への対応・生徒指導提要の改訂」、「幼児教育と小学校教育の架け橋」、「教師の資質・能力の向上等」についての行政説明が行われました。

最後に、第七十四回全連小研究協議会島根大会の参集開催を熱望する島根県会長からのメッセージがあり、閉会となりました。

話題の広場

伝統の「一五活動」

足利市立毛野南小学校

船渡川 歩

本校は、昭和五十三年に開校し、今年で四十五年目を迎えます。教育目標は「がんばりぬく力 思いやる心」と簡潔です。教職員も児童も、常にこの二つを意識しながら学校生活に臨んでいます。

本校の活動の中に、「一五(いちご)活動」があります。縦割り班の五年生が一年生の世話係をするものです。四月は、登校して来た一年生を昇降口で出迎え、自分の担当する一年生の支度を手伝った後、隣に座って読み聞かせをします。休み時間、へび鬼やアサガオの水やりを隣で見守る五年生の姿は、とても微笑ましいです。

新型コロナウイルス禍であるので、他学年との交流を減らす選択肢もありましたが、意義を考え実践してきました。本来、くつついたり、顔を寄せ合わせたりして、人の温もりや重みなどを感じ取りながら育つ子どもたちに、これかからもできるだけ『ふれあい』を感じさせたいと思っています。

運営拠出金委員会だより

運営拠出金委員長

伊藤 裕之

今年度より新たに県小学校長会の会員になられた校長先生方、ご昇任おめでとうございます。

運営拠出金委員会は、校長会の主体的な活動の充実と強化を図ることにより、校長がその地位を確立し、職務を遂行するために行う諸活動の財源(運営拠出金)の保管・管理をする目的で設けられています。運営拠出金は、本会に入会される際に、皆様からお預かりしています。

さて、本委員会では、昨年度開催予定でした関プロ栃木大会に向けて、準備資金や開催資金を積み立ててまいりましたが、大会が紙上開催となったために、大幅な予算の見直しを行いました。

現在は、今年度、県校長会七十五周年行事等が予定されており、そのための資金も積み立てております。

会員の皆様におかれましては、本委員会の活動の趣旨をご理解の上、ご協力の程お願い申し上げます。

県小学校長会事務局だより

事務局長

吉成 隆志

新型コロナウイルス禍において、会員の校長先生方の感染予防を第一に考えながら、県小学校長会の事業や運営方法を工夫し、昨年度以上にウェブ会議等を積極的に活用し、県小学校長会の役割を果たしていきたいと考えています。

年度当初の理事研修会は、理事の皆様に参加していただき、新役員承認を行いました。定期総会は、昨年度と同様にウェブ参加と会場参加のハイブリット型で開催することと致しました。

昨年度後半より、各地区会長の皆様や研修部員の皆様にご協力をいただいで、小学校長会七十五周年記念事業の準備を始めました。今年度十一月に、記念式典及び研究大会を開催し、二月には記念誌を発刊・配付する予定です。

栃木県小学校長会事務局は、今年度も私と高柳事務局主任です。勤務は、九時～十六時です。

不在の場合は、留守電設定にしておきますので用件をお話しください。

編集後記

新型コロナウイルス感染症の流行から二年余り、未だ先の見えない状況が続きます。

私は、今年度、新任の校長になりました。現在、強く感じることは、教頭先生や教務主任の先生をはじめ、本校の教職員への感謝の気持ちです。

本市の校長会では、教育長より「教職員の同僚性構築の一丁目一番地は、校長の後ろ姿にあり。三役間の望ましい人間関係が、教職員に、延いては子どもたちにも伝播すると常に心に留め置くこと」との言葉を受けました。改めて、身が引き締まる思いです。

本号の発行に際して、ご協力くださいました皆様に心より感謝申し上げます。

栃木市立大宮南小学校

梅山 好昭

